

「がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）」の 中間評価について

平成22年10月
がんプロフェッショナル養成プラン推進委員会

「がんプロフェッショナル養成プラン」は、文部科学省において、平成19年度より開始したがん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医療人（医師、看護師、薬剤師等）の養成を図る大学の取組に対する支援を行う事業である。

本事業は、がんが昭和56年以来わが国の死因第1位の疾患であり、国民の生命および健康に重要な課題となっている現状に鑑み、大学間及びがん診療拠点病院間等において緊密なネットワークを構築し、全国におけるがん医療水準の向上（均てん化）を行うとともに、がんを横断的・集学的に診療できる医療人の養成を図ることで、全国どこでも最適ながん治療が受けられ、がん治癒率、がん患者のQOL等の向上を目指すことを目的としている。

本事業においては、プログラムの開始から2事業年度経過後、中間評価を行うこととしていたところである。当中間評価は、本事業の目的が十分達成されるよう、本委員会が各プログラムの進捗状況等を確認し、適切な助言を行うことにより、事業の効果的で効率的な推進に資することを目的としており、今回、平成19年度に選定した全18プログラムから進捗状況報告書の提出を受け、当初計画の達成が可能か否かについて、書面及び合議評価を実施した。

全体的な進捗状況としては、各プログラムともに、当初の養成目標・養成計画に沿った教育体制の整備や、高い臨床能力と研究能力を併せ持ったがん専門の医師及び看護師・薬剤師などの医療スタッフ（従来のコメディカル）を養成するために、大学・大学附属病院・がん診療拠点病院などの地域医療機関との有機的な連携体制の構築が進められがん医療に専門的に携わる医療従事者の養成が着実に図られている（平成22年5月時点の受入数：約2000人）等、本事業の趣旨に沿った取組が行われているものと認められる。「がんプロフェッショナル養成プラン選定委員会」の留意事項に対しても適切な対応がなされており、全体として各プログラムが効果的に推進されているものと評価できる。また、がん看護専門看護師（日本看護協会認定）の養成のための日本看護系大学協議会の教育課程の認定を受けた大学が急増していることもがんプロフェッショナル養成プランの成果の一つと考えられる。

例えば、医師及び医療スタッフの養成コースまたはインテンシブコースの学生が、共同で大学附属病院等での実地修練やキャンサーボード等の合同カンファレンスへの参加を積極的に行い、プログラムによっては、参加状況を成績評価に加味するなど、がん治療に係るチーム医療のトレーニングに係る取組が進んでいる。この際、連携大学が遠隔地にあるプログラムにおいては、相互に設置したテレビ会議システム等を利用した合同カンファレンスが行われるなどの工夫も見受けられる。

さらに、各プログラムが主体となって、各地域において市民公開講座やシンポジウムの開催等の地域医療に貢献する取組が行われているほか、他のプログラムとの間でシステムやコンテンツの共同利用を図るなど、全国的ながん医療水準の向上に努める取組も見受けられた。

一方、本事業の開始から2事業年度を経過したところであるが、この間、教員組織や診療科等の基盤的な教育体制の整備のみにとどまり、連携大学や関連する医療機関との効率的な連携体制の構築や、教員の資質向上のための取組、学生支援体制の整備、外部評価の導入等を十分に行うことができなかったプログラムや、医師以外のがん専門の医療スタッフとの関わり方について、より検討が必要とされるプログラムもあり、今後、当初の計画に沿った更なる推進・発展が望まれる。

また、本事業終了後における、各プログラムの具体的な継続方針について引き続き検討を進め、本事業を契機としたがんに特化した専門医療人養成については、更なる養成数の増にかかる取組を続けることが期待される。

各プログラムにおいては、連携大学間の連携体制をより強固なものとし、さらには、大学病院及びがん診療拠点病院等とのより緊密なネットワークを構築することで、全国に先駆けたがん専門医療人養成の教育プログラムとしての役割を果たすことが望まれる。

最後に、今後プログラムを推進するにあたっては、今回の中間評価結果を効果的・効率的に反映するとともに、本委員会による留意事項への適切な対応を行うよう要請するものである。

(別添資料)

1. がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）プログラム一覧
2. がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）中間評価結果（総合）
3. がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）中間評価結果（プログラム別）
4. がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）中間評価スケジュール
5. がんプロフェッショナル養成プラン推進委員会委員名簿
6. がんプロフェッショナル養成プラン評価要項

がんプロフェッショナル養成プラン(平成19年度選定)プログラム一覧

No.	申請担当大学	取組名	共同申請大学
1	札幌医科大学	北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム	北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学
2	東北大学	東北がんプロフェッショナル養成プラン	山形大学、福島県立医科大学
3	秋田大学	北東北における総合的がん専門医療人の養成	岩手医科大学、岩手県立大学、弘前大学
4	自治医科大学	全人的ながん医療の実践者養成	国際医療福祉大学
5	群馬大学	北関東域連携がん先進医療人材育成プラン ー重粒子線照射装置を中心とした集学的治療法の確立・普及を目指してー	獨協医科大学、群馬県立県民健康科学大学
6	千葉大学	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点	筑波大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学
7	東京大学	横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進	横浜市立大学、東邦大学、日本大学
8	東京医科歯科大学	がん治療高度専門家養成プログラム	東京工業大学、日本医科大学、東京薬科大学
9	北里大学	南関東圏における先端的がん専門家の育成 ー患者中心のチーム医療を牽引する人材養成の拠点づくりー	慶應義塾大学(共立薬科大学※)、聖マリアンナ医科大学、東海大学、山梨大学、首都大学東京、聖路加看護大学、信州大学、東京歯科大学
10	順天堂大学	実践的・横断的がん生涯教育センターの創設	明治薬科大学、東京理科大学、立教大学、新潟大学
11	金沢大学	北陸がんプロフェッショナル養成プログラム ーICTによる融合型教育システム及び「がんプロネット」の構築ー	富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学
12	名古屋大学	臓器横断的がん診療を担う人材養成プラン ーグローバルスタンダードにかなうメディカルオンコロジーチームの育成ー	浜松医科大学、名城大学、岐阜大学、岐阜薬科大学、藤田保健衛生大学、名古屋市立大学、愛知医科大学
13	京都大学	高度がん医療を先導する人材養成拠点形成	三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学
14	大阪大学	チーム医療を推進するがん専門医療者の育成 ー集学的治療から在宅医療そして緩和ケアまでー	和歌山県立医科大学、奈良県立医科大学、京都府立医科大学、兵庫県立大学
15	近畿大学	6大学連携オンコロジーチーム養成プラン	大阪市立大学、神戸大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学
16	鳥取大学	銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム ー中国地方中山間地のがん医療均てん化を目指すー	広島大学、島根大学
17	岡山大学	中国・四国広域がんプロ養成プログラム ーチーム医療を担うがん専門医療人	愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知女子大学、徳島大学、山口大学
18	九州大学	九州がんプロフェッショナル養成プラン	久留米大学、産業医科大学、福岡大学、福岡県立大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、九州看護福祉大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学

※ 共立薬科大学は平成20年4月1日より慶應義塾大学と統合。

がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）
中間評価結果（総合）

1. 総合評価結果

総合評価		件数
A	当初計画は順調に実施されており、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される	10 件
B	当初計画通りに取組は実施されているものの、計画達成のためには、これまで以上の努力が必要と判断される	4 件
C	当初計画を達成するには、助言等を考慮し、更なる一層の努力が必要と判断される	4 件
D	このままでは当初計画を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切な変更が必要と判断される	0 件
E	現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初計画の達成は困難と判断される。	0 件
計		18 件

2. 総合評価内訳

A 当初計画は順調に実施されており、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される【10件】

整理番号	主担当大学名	プログラム名
1	札幌医科大学	北海道の総合力を生かすプロ養成プログラム
2	東北大学	東北がんプロフェッショナル養成プラン
6	千葉大学	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点
7	東京大学	横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進
9	北里大学	南関東圏における先端的がん専門家の育成
12	名古屋大学	臓器横断的がん診療を担う人材養成プラン
14	大阪大学	チーム医療を推進するがん専門医療者の育成
15	近畿大学	6大学連携オンコロジーチーム養成プラン
17	岡山大学	中国・四国広域がんプロ養成プログラム
18	九州大学	九州がんプロフェッショナル養成プラン

B 当初計画通りに取組は実施されているものの、計画達成のためには、これまで以上の努力が必要と判断される【4件】

整理番号	主担当大学名	プログラム名
5	群馬大学	北関東域連携がん先進医療人材育成プラン
10	順天堂大学	実践的・横断的がん生涯教育センターの創設
11	金沢大学	北陸がんプロフェッショナル養成プログラム
13	京都大学	高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成

C 当初計画を達成するには、助言等を考慮し、更なる一層の努力が必要と判断される【4件】

整理番号	主担当大学名	プログラム名
3	秋田大学	北東北における総合的がん専門医療人の養成
4	自治医科大学	全人的ながん医療の実践者養成
8	東京医科歯科大学	がん治療高度専門家養成プログラム
16	鳥取大学	銀の道で結ぶがん医療人養成コンソーシアム

3. 総合評価順位

順位	整理番号	主担当大学名	プログラム名
1	6	千葉大学	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点
2	7	東京大学	横断的ながん医療の人材育成と均てん化推進
3	14	大阪大学	チーム医療を推進するがん専門医療者の育成

がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）の取組概要及び中間評価結果

		整理番号	6
主 担 当 大 学 (連 携 大 学)	千葉大学 (筑波大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学)		
取 組 名	関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点		
事 業 推 進 責 任 者	丹沢 秀樹 (医学研究院副研究院長)		
(取組概要)			
<p>平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」で選定された「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」は、千葉県、茨城県、埼玉県におけるがん専門家育成のためのコンソーシアムを形成する取組である。この地域の人口は日本総人口の8分の1強を占める一方、都道府県別人口比医師数のワースト1、2、3位を占める医療過疎圏であり、この地域における充実した効率的がん診療・医療人育成の確立はがん医療の均てん化に極めて重要である。申請3大学（21年度より4大学）を中心に、関連施設を包括した拠点を形成する。また、各自治体医療政策とも緊密な連携を既に確立している。これらの施設が大学、職種の壁を取り払い、人的・教育資源を“プログラムジュークボックス”として共有し、施設毎、職種毎に適した形に再構築・活用し、がん診療ケア・研究の多職種専門家を効率的に育成する計画である。</p>			
参 考	平成22年5月時点の養成受入数：161人		
(がんプロフェッショナル養成プラン推進委員会による所見)			
(総合評価) A			
当初計画は順調に実施されており、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。			
(コメント)			
<p>本プログラムは、当初設定した養成目標・養成計画に従って、着実に進展しており、選定委員会の審査結果への留意事項への対応も適切に行われていることから、全体としてがん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医療人の養成を図るといふ本事業の趣旨・目的に合致している優れた取組を行っているものとして評価できる。</p> <p>また、本プログラムを契機として整備された腫瘍に関する講座やチーム医療に関する取組等は大学院教育のみならず、学部教育における腫瘍学教育の発展にもつながっており、補助事業終了後においても、プログラムの成果を今後も普遍的に継続させるため、連携大学とのがん専門の連携大学院設立を目指しているなど、本プログラムは、他のプログラムの模範となるような先駆的な取組が行われている。</p> <p>一方、筑波大学における放射線腫瘍学コースやがん専門薬剤師養成コースについては、十分な養成が行われておらず、より具体的な目標・計画によって養成が行われることが期待される。</p> <p>今後とも、現在の取組をより一層発展・推進させることが望まれる。</p>			